

第13回

「農」と里山シンポジウム

「落ち葉」の力を使う！

三富地域農業と平地林の
利用促進について考えます。



● 日時

9/23(祝・土)

13:00-16:00

● 場所

ウエスタ川越

1階多目的ホール

JR川越線、東武東上線「川越駅」から
徒歩約5分(川越市新宿町1-17-17)

要申込み
入場無料

● 内容

基調講演「落ち葉堆肥と土づくり」

犬井 正 氏(獨協大学名誉教授)

パネルディスカッション「落ち葉堆肥の魅力」

パネリスト 犬井 正 氏、大木 洋史(川越市伝統農法実践農家)、
川瀬 悟(所沢市新規就農者)、過 昌司(福原水と緑の会)

● 申込方法

参加者全員の①郵便番号・住所、②氏名、③電話番号を明記の上、
ハガキ・FAX・メールのいずれかでお申し込みください。
後日、受付可否をハガキで回答します。

(※ 定員になり次第、受付を締め切りますので、予めご了承ください。)

先着
200名様

9/19(火)
必着

さんどめねっと
インフォメーション



申込
問合せ先

三富地域農業振興協議会

(埼玉県川越農林振興センター管理部門内)
〒350-1124

川越市新宿町1-17-17 ウェスタ川越公共施設棟5F

TEL: 049-242-1808

FAX: 049-243-7233

Mail: r4218103@pref.saitama.lg.jp

シンポジウム趣旨

川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三芳町にまたがる「三富地域」には、江戸時代に開拓された屋敷地・畑・平地林からなる短冊状の地割形状が、現在も多く残されています。

かつて平地林（ヤマ）の樹木は燃料となり、落ち葉は堆肥として畑を肥やしてきました。今日でも、三富地域の農家では、ヤマから得られる落ち葉を堆肥化して畑にすき込む伝統農法が営まれており、独特の美しい景観は都市住民の安らぎの場にもなっています。

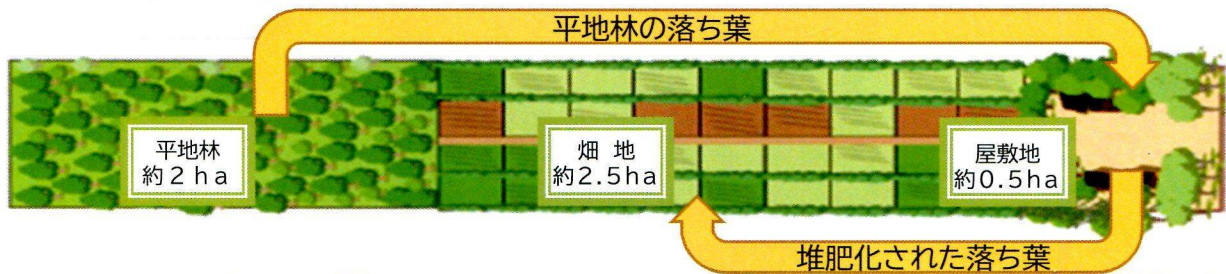
このかけがえのない「農」と里山のシステムを将来にわたり維持・発展させるため、シンポジウムを開催し、参加者を通じて意識啓発を図っています。

今回は、三富地域の平地林の利用形態などを50年にわたって研究している獨協大学名誉教授の犬井正氏による基調講演を行います。

また、本年7月に世界農業遺産に認定された落ち葉堆肥を使った伝統農法を続けている農家、平地林を所有していない新規就農者、農家に代わり落ち葉を集め、里山再生に取り組む団体によるパネルディスカッションを行います。

本シンポジウムを通じ、落ち葉堆肥の力や魅力、平地林が生み出す有機物の有効活用を考えていただくとともに、三富地域の農業、平地林の利用促進について皆様と考えていきたいと思っております。

三富地域の短冊状の地割形状と、落ち葉の流れ



時間	内容
12:00-12:55	会場・受付
13:00-13:10	開会・主催者挨拶
13:10-13:20	来賓あいさつ
13:20-14:40	基調講演 『落ち葉堆肥と土づくり』 獨協大学名誉教授 犬井正氏
14:40-14:50	休憩
14:50-16:00	パネルディスカッション 『落ち葉堆肥の魅力』 パネリスト 犬井正氏、地元農家ほか
16:00	閉会あいさつ

当日のご案内

9月22日（金）までに、お申込者全員にハガキをお送りします。ご参加いただける方は、そのハガキが「入場券」となっておりますので、当日、必ずご持参ください。（※定員到達により、ご参加いただけない方には、その旨をハガキにてお知らせします）

【主催】三富地域農業振興協議会

【後援】関東農政局、関東地方環境事務所、埼玉県、川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三芳町、いるま野農業協同組合、武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会、NPO法人武蔵野の未来を創る会、公益財団法人トトロのふるさと基金、生活クラブ生協埼玉、公益財団法人森林文化協会

【協賛】株式会社西武リアルティソリューションズ